

古典文法・助動詞④「る、らる」【解答】

【練習1】

- 1 (口語訳) 自然と思われる
(文法的説明) 自発の助動詞「る」の連体形
「る」が「思ふ」に付いて自発になる例。
- 2 (訳) 自然と限りなく思い出される
(説) 自発の助動詞「らる」の終止形
「らる」が「思ひ出づ」に付いて自発。
- 3 (訳) 本当の極楽が自然と想像される
(説) 自発の助動詞「る」の終止形
「る」が「思ひ遣る」に付いて自発。
- 4 (訳) ああ悲しいと自然と思ひ嘆かれる
(説) 自発の助動詞「る」の終止形
「る」が「思ひ嘆く」に付いて自発。
- 5 (訳) 自然と連想される
(説) 完了の助動詞「り」の終止形
「らる」が「思ひ比ふ」に付いて自発。
- 6 (訳) 何かを隔てていて(姿が見えなくて)も自然と理解される
(説) 自発の助動詞「る」の已然形
「る」が「知る」に付いて自発。係助詞「こ」の結びで已然形。
- 7 (訳) 自然とはっと気が付いた
(説) 自発の助動詞「る」の連用形
「る」が「驚く」に付いて自発。
- 8 (訳) 自然とため息をおつきになって
(説) 自発の助動詞「る」の連用形
「る」が「うち嘆く」に付いて自発。
- 9 (訳) 自然と泣いてしまった
(説) 自発の助動詞「る」の連用形
「る」が「うち泣く」に付いて自発。
- 10 (訳) 自然と笑顔になる気持ちがして
(説) 自発の助動詞「る」の連体形
「る」が「うち笑む」に付いて自発。

- 11 (訳) 自然と推測される
(説) 自発の助動詞「る」の連体形
「る」が「推し測る」に付いて自発。
- 12 (訳) 自然と自分自身に似ているように思われて
(説) 自発の助動詞「らる」の連用形
「らる」が「比ふ」に付いて自発。
- 13 (訳) 自然とがっかりしてしまう
(説) 存続の助動詞「らる」の連体形
「らる」が「心劣りす」に付いて自発。
- 14 (訳) 全く眠ることができない
(説) 可能の助動詞「る」の未然形
「る」の下に「ず」が付いていて、可能。
- 15 (訳) 湯も水も飲むことができません
(説) 可能の助動詞「る」の未然形
「る」の下に「ず」が付いていて、可能。
- 16 (訳) 全く抜くことができない
(説) 可能の助動詞「る」の未然形
「る」の下に「ず」が付いていて、可能。
- 17 (訳) 狐に食われる。
(説) 受身の助動詞「る」の終止形
「に…される」の形で受身になる例。
- 18 (訳) 物の怪に襲われる
(説) 受身の助動詞「る」の連体形
「に…される」の形で受身。
- 19 (訳) 例え人に指を指して笑われるとしても
(説) 受身の助動詞「る」の連体形
「に…される」の形で受身。
- 20 (訳) 人に軽蔑されるもの
(説) 受身の助動詞「る」の連体形
「に…される」の形で受身。
- 21 (訳) お帰りになった
(説) 尊敬の助動詞「る」の連用形
主語が貴人(ここでは大将)で尊敬。

22 (訳) お乗りになるだろうか。

(説) 尊敬の助動詞「る」の終止形
主語が貴人(ここでは大納言)で尊敬。

23 (訳) お選びになった

(説) 尊敬の助動詞「る」の連用形
主語が貴人(ここでは治部卿)で尊敬。

24 (訳) おっしゃられる

(説) 尊敬の助動詞「る」の連体形
「仰す」に付いて尊敬。また係助詞「なむ」
の係り結びで連体形「らるる」となる。

25 (訳) おっしゃられたので

(説) 尊敬の助動詞「る」の連用形
「仰す」に付いて尊敬。

26 (訳) おっしゃられるので

(説) 尊敬の助動詞「る」の已然形
「仰す」に付いて尊敬。

27 (訳) 自然と気後れなさる

(説) 自発の助動詞「らる」の連用形
「給ふ」の上にある「らる」は尊敬にならない。
い。ここでは「臆す」という心情を表す語
について自発とるのがよい。

28 (訳) 自然とお泣きになる

(説) 自発の助動詞「る」の連用形
「給ふ」の上の「る」は尊敬にならない。こ
こでは「泣く」という感情を表す動詞につ
いて自発。

29 (訳) 寝ることがおできにならない

(説) 可能の助動詞「る」の連用形
「給ふ」の上の「る」は尊敬以外。ここでは
下に打消の「ぬ(ず)」があり可能。

30 (訳) 言われなさった

(説) 受身の助動詞「る」の連用形
「給ふ」の上の「る」は尊敬以外。ここでは
「に」に続く形でに受身とるのがよい。